「研究テーマ」

新聞を通じて、生き方を学ぶ　～３年目のＮＩＥ～

尼崎市立南武庫之荘中学校　教諭　中嶋　勝

１　はじめに

２０１２年度は、ＮＩＥ実践指定校奨励枠として、３年目のＮＩＥ活動を行うことができた。本年度も、一昨年、昨年に引き続き、国語科、社会科、学級活動などで新聞を活用している。

２年間の実践をふまえながら、さらにより多くの生徒に「新聞に触れる機会」を増やし、新聞を通じて「思考」「判断」「表現」する力を培うことをねらいとした。

２　実践の概要

【新聞ノートの作成】（2 年　国語科）

新聞記事をノート左側にのり付けし、右側に記事の要旨と感想を書く。国語科の宿題として毎週月曜日に提出する。

授業の中で新聞ノートを回し読んだり、読んでおきたい記事を選んでいる生徒のノートは、全員分をプリントして読み、感想を述べる機会を作った。

【読売新聞「編集手帳見出しコンテスト」に学年全員で応募】（1、2 年　国語科）

要旨をまとめ見出しをつける力を培うために、毎日新聞の「見出しをつけてみよう」のコーナーを使って授業を行ったり、読売新聞の「編集手帳見出しコンテスト」に学年全員で応募したりした。

【ニュース検定の実施】（3 年　総合）

３年生の総合の授業で取り組んでいる時事問題に興味・関心を高めるために１１月、本校でニュース検定を実施した。受検する生徒は検定に向けて新聞をひんぱんに読むようになった。

【いっしょに読もう！新聞コンクール】
【ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷＳ２０１２】

１学期末の比較的余裕のある時期を利用して、コンクールに応募するための記事を選ぶ時間を作り、「ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷＳ２０１２」への投稿文の作成を夏休みの課題とした。

前年度の「ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷＳ」を紹介し、全員に新聞を配布して「心が温まる記事」などを探した。９月には２年生のほぼ全員が課題を提出することができた。この取り組みには日本新聞協会から特別賞が授与された。

【朝ＮＩＥとファミリーフォーカス】

２学期からは、毎週金曜日、朝学習の時間（１５分）を利用して新聞記事を読んだ。記事の内容は「同じ世代の投稿」「障害を乗り越える若者」「東日本大震災」など生徒がその記事を通じて自分自身の生き方と向き合うことができる内容を選んだ。

新聞記事を教師が音読し、生徒は右側の欄に感想を書く。そのプリントは家に持ち帰り、保護者に意見を書いてもらったり、保護者から聞き取ったことを書くようにした。

生徒と保護者の記事についての感想は、考えを深めるために、学年通信などを通じて学

年全生徒に配布した。

この活動によって、語彙力や文章力を身につけるだけでなく、社会で起こっていることへの関心も高まった。また、家族と記事について話し合ったり自分の考えを親に伝えたりする機会が非常に増えたという感想が多かった。

（保護者の感想）

・いつもファミリーフォーカスをたのしみにしていました。毎日あわただしく過ごしていると、新聞を斜め読みしていることが多いので、ゆっくりじっくり読めたし、わが子の考えていることや感じていることを知ることができたからです。また、他のお母さん方の感想も読めて楽しかったです。これからも続けてもらえたら…と思います。

・最近は紙に文章を書くことが少なくなり、何でもボタン一つでできるようになり、いざ自分の手で文字を書くとなったら漢字が出てこなかったり、文章を考えたり、辞書を引いたり。改めて文字を書くことの大切さを感じながら毎週感想を書いています。ＮＩＥの記事を見て子どもがどんなことを思い感じ成長しているのかを見られる良い機会にもなっています。

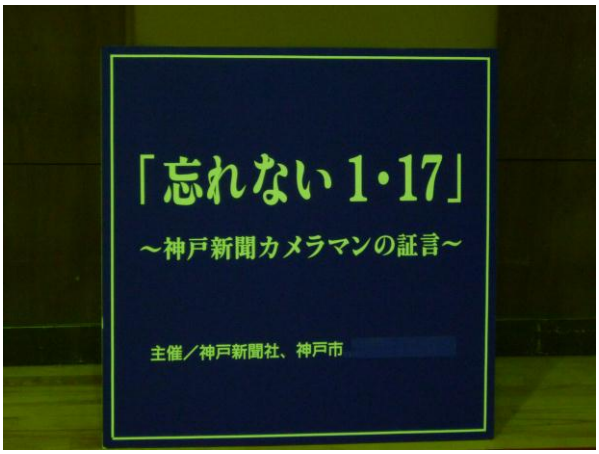
・いろいろ勉強させていただきました。新聞をじっくり読む習慣がなく、こんなにも良い記事があって、親子で話し合える材料がたくさんあるのに見逃していました。このＮＩＥ活動、本当に良かったです。

・親子で一つの記事を読んで、感想を書くという宿題は私が子どもだった頃にはありませんでした。自分の子どもが書く文章を読むということ、そして、子どもが親の書いた文章を読むということは、お互いの感じ方がよく分かるので、このＮＩＥ「ファミリーフォーカス」は良い活動だと思います。

【新聞記者派遣】

記者派遣事業を利用して、１１月１６日に神戸新聞ＮＩＥ推進室長・金居光由氏に講演していただいた。

金居氏は阪神・淡路大震災の時、あの過酷な状況の中でも、報道カメラマンとして震災現場の生々しい姿を追い続けた方である。また、２０１０年にフジテレビで放送された「神戸新聞の７日間」の中で、登場人物の一人として震災当時の様子を話されている。



講演の事前指導として、２年生生徒全員を対象に「神戸新聞の７日間」を鑑賞した。この映画は、阪神・淡路大震災によって社屋が壊滅してしまった神戸新聞社が何としてでも

新聞を発行し続けようとした新聞記者たちの闘いの記録である。

震災、新聞社という重いテーマを扱っているが、主人公のカメラマン役は、人気グループ嵐の桜井翔である。中学生たちの関心はかなり高く、ラストシーンまで固唾をのんで見ていたのが印象的だった。

ＮＩＥ　映画「神戸新聞の７日間」

目的　阪神・淡路大震災時の神戸新聞社を題材にした映画を鑑賞した後、その当時の新聞記者の体験を聞き、阪神・淡路大震災のことや「新聞記事」に対しての理解を深める。

日時　２０１２年１１月１４日（水）
５、６校時　（１：１５～２時間）

2010 年 1 月 16 日のフジテレビ土曜プレミアムで放送されたドキュメンタリードラマ（キャスト桜井翔 吹石一恵 萩原聖人 田中 圭 小野武彦 山本 圭 高嶋政宏 内藤剛志 ほか）

講演後は、金居氏が持参された震災当時の写真パネルを見せていただき、さらに震災の恐ろしさを実感することができた。

（生徒の感想　映画）

・阪神・淡路大震災の被害は被災者の心にすごく傷を残していると思いました。カメラマンは泣いている人を撮ったり、悲しい場面を撮るのは、すごく勇気がいることだと映画を見て思いました。

・数字で被災者数を見ても、あまり深く考えなかったけれど、写真を見ることで、その一人一人がどんな思いをしているのかを知ることができました。地震の時は、情報が欲しいから、新聞はすごい被災者の心の支えになったと思います。

・私は、阪神・淡路大震災に限らず、昨年起こった東日本大震災についても、テレビなどで報道されているのを見ると涙していました。しかし、それはただの同情にすぎなかったのだと思いました。

・映画の中の、「今とらんで（写真を）いつとんねん！」という金居さんの言葉に胸を打たれました。編集長の方の「絶対に忘れない」という言葉にうなずきました。地震の怖さ、せつなさはその地震を体験した人間にしかわからない。自分たちにしかわからないことを周りの人たち、そして後の世代へ伝えていく。これが大事なのだと思いました。

（生徒の感想　講演）

・金居さんの話が終わった後、金居さんが撮った写真を見せていただきました。その中に東灘区の写真がありました。東灘区は昔、私の母、祖母、祖父が住んでいたので私も知っています。震災直後の東灘区の写真を見ると胸が痛くなりました。今の東灘区の街からは想像もつかないほどひどかったです。でもこのようなことがあったことを決して忘れずに次の世代へと語り継いで行きたいと思います。

・とても貴重な時間をありがとうございました。一つ一つの話をこんなに真剣に聞けたのは、今回が初めてでした。それぐらいとても刺激的でたくさんのことを知りたい、知っておきたいと思いました。地震についての準備、そしてもし尼崎で起こったときに私ができること、そのためにしておかなければならないことが分かったような気がします。この地震のことを決して忘れずに次の世代に語りついでいきたいと思います。

・次々と壊れていく家。失われていく命。写真におさめるのもつらいことだったと思います。金居さんのその時の気持ちや思い。たくさんのことが聴けて本当に良かったです。地震が起き、いろいろな人の人生が変わってしまった。そのことは絶対に忘れてはいけないと思います。

【ＮＩＥ係による掲示】

新聞に関心を持つ生徒に声をかけて、定期的に新聞を使った掲示物を作ってもらっている。玄関や廊下に貼られたその掲示物を読むことで、あらためて社会の出来事や新聞に関心を持つ生徒が増えている。

【新聞置き場と整理方法】

生徒が自由に新聞を閲覧でき、本校職員が気軽に授業で使用できるように職員室前に一ヶ月分の新聞を常時置いている。また、その上にある掲示板には、みんなに関心を持って欲しいと思う記事を、係りの生徒が記事を選び張り出している。

新聞の使用方法は、主に国語科が使用しているので国語科担当教員が、話し合いながら決めている。

3　まとめ

３年間の取り組みを通して、新聞に関心を持ち興味を持って記事を読む生徒がさらに増えたと実感している。「思考」「判断」「表現」する力を培うために、今後も研修を進めながら継続してＮＩＥ活動を行いたい。